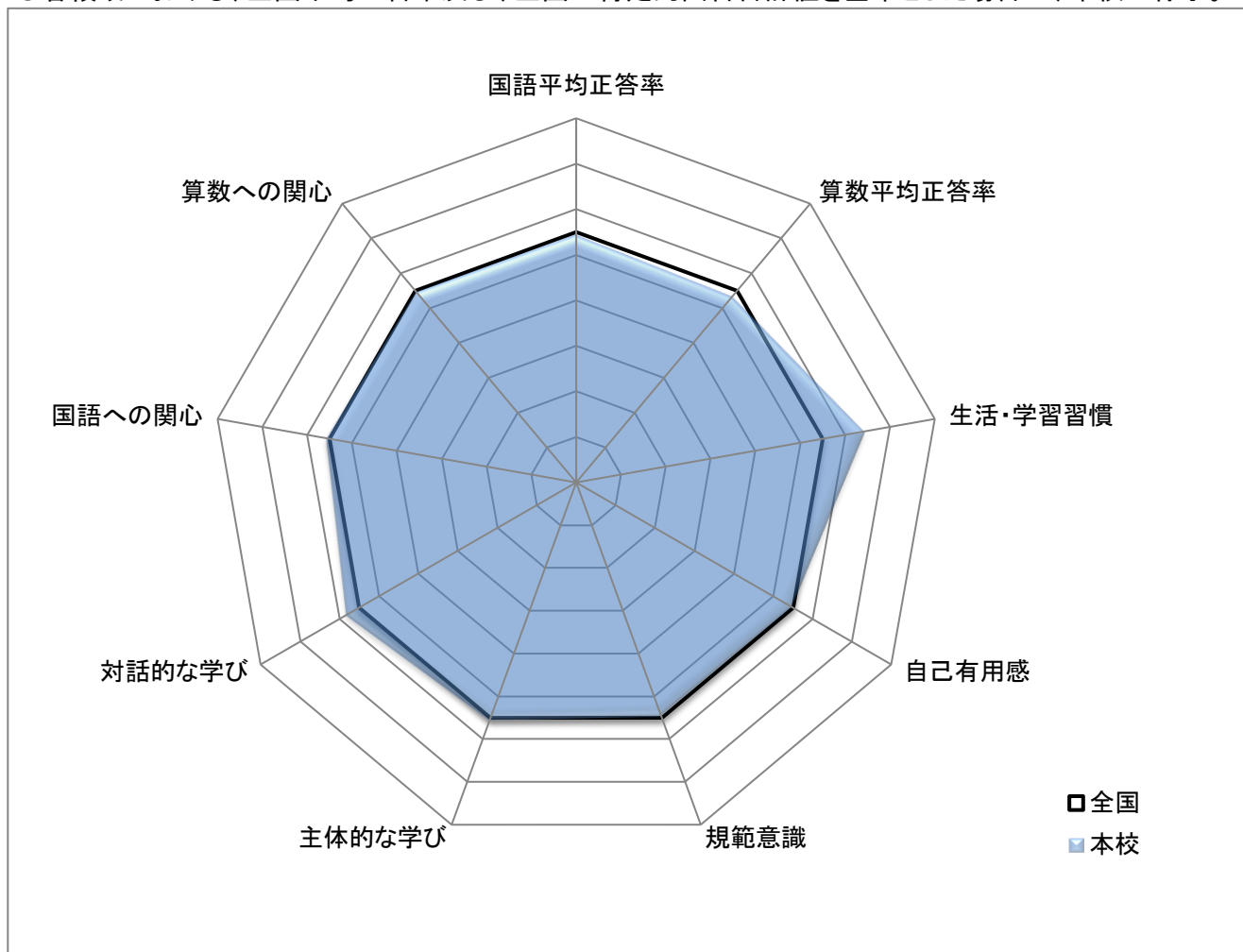


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

□国語
 ○基本的な知識や文章からの読み取り、適切な話し方の理解などはどれも全国・東京都平均を上回っており、問題の形式にかかわらず答えることができている。
 ●目的や意図に応じて、相手に分かりやすく書いたり表現したりすることが苦手である。

□算数
 ○図形の面積を求める問題は、どれも全国平均を上回っていた。
 ●加減乗除に注意して計算するなど、計算の意味を考えて問題を解くことが十分ではなく、領域において16問中11問が全国・東京都平均を下回っている。

《授業改善のポイント》

<国語>
 文法等の基礎的な知識・理解については、教科書を活用して学習することはもちろん、文章を読む学習の中で、主語に注目させる発問を意図的に組んだり、文章を書く学習で、文を推敲する視点として主語のつながりを意識させたりするなど様々な場面で指導をしていく。

<算数>
 基礎的、基本的な知識・技能の定着を図るために、単元のはじめに既習事項をしっかりと振り返ったり、誤答が多い問題に何度も取り組んだりするなど、家庭学習も活用しながら繰り返し指導していく。その上で、発展問題に取り組む機会も設定する。

《チャートの特徴》

○学習については、正答率や関心などほとんどの項目において平均に近い数値である。
 ○その一方で、生活・学習習慣は全国平均を上回っている。起床・就寝時刻が同じで生活リズムが安定していることが分かった。また、携帯電話などの利用に関して、家庭での約束を守って使用している児童の割合が平均より大幅に高かった。しかし、74.7%と改善の余地がある。自己有用感については、平均よりやや下回った。その中でも「将来の夢や目標を持っていますか」という項目は、全国平均を7%下回った。

《家庭・地域への働きかけ》

・保護者会や個人面談、学校公開等で、学力調査の結果等をふまえ、児童の学習状況を伝える。
 ・ほめほめカードを活用し、子どもの良さを価値づけ自尊感情を高めていく。
 ・正しい生活習慣を身に付けることが、学力向上につながる。朝食をとることはもちろん、睡眠時間、テレビやゲーム・携帯電話等の使用時間など生活習慣改善の協力が得られるよう発信する。